



Title	乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン
Author(s)	高久, 慶典
Citation	makoto. 1980, 30, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86107
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン

阪大微生物病研究会

学術部長 高久慶典

ムンブス（流行性耳下腺炎。
おたふくかぜ）は発熱をともな
つて耳下腺の腫脹と圧痛をもつ
た小児の急性伝染病です。春か
ら初夏にかけての流行期には幼
稚園や小学校で激しい伝染を起
し、一時学級閉鎖されることも
稀ではありません。しばしば皰
膜炎または脾臓炎を併発して重
篤になる場合もあり、そして思

春期になつてから罹患すると男
子では睾丸炎、女子では卵巢炎
を起こす恐れがありこれが原因
となつて不妊症になることがあります。
このためワクチンの実用化が叫ばれておりました。

ワクチン開発の経過
おたふくかぜワクチンのほぼ
完成品と見られるものができた
のは麻しんワクチンと同じ一九
四四年であります。

ところで日本では昭和四十三
年にワクチンがほぼ完成してい
ましたので文部省、厚生省より
研究費が出て研究班がつくられ、
三年間にわたり検討されたとこ
ろ副反応が少なく、かつ効果が
優れ正在ことを確めました。

そこで昭和四十七年からは実用
化のためにムンブスワクチン研
究会がつくられ安全性と有効性
について試験されました。

このようにして試験されたワク
チンは、いよいよ「乾燥弱毒生
おたふくかぜワクチン」として
中央薬事審議会で製造が許可に
なり、今秋には市販されるはこ
びとなつております。

表一 微研において昭和42～48年にムン
ブスワクチンを接種した者の昭和51
年までの罹患調査

昭和 (年)	かからなかつた		かかつた		不 明
	流行なし (流行の 有無不明)	流行あり (接觸の 有無不明)	流行あり (接觸の 有無不明)	計	
42	15	9	22	46	1
44	44	29	33	106	0
45	67	45	91	203	2
46	77	74	88	239	7
47	66	47	54	167	2
48	97	65	51	213	1
総計	366	269	339	974	13
					24
					7

（大阪伝染病流行予測調査会報告）

ワクチンの効果と副反応

表は昭和五十一年にワクチン被接種者個人別家族宛通信によつて、昭和四十二年から昭和四十八年までの間にワクチンを受けた者のうち罹患調査のできた

千余名についてまとめたものです。毎年かなりの流行が見られるにもかかわらず、ワクチン接種後ムンブスに罹患する者が非常に少ないことがうかがえます。

常に少ないことがうかがえます。特に患儿と接触していくもかかりませんが多數あることは、すぐれた有効性を示すものであるにもかかわらず、ワクチン接種後ムンブスに罹患する者が非常に少ないことがうかがえます。

常に少ないことがうかがえます。特に患儿と接触していくもかかりませんが多數あることは、すぐれた有効性を示すものであるにもかかわらず、ワクチン接種後ムンブスに罹患する者が非常に少ないことがうかがえます。

常に少ないことがうかがえます。特に患儿と接触していくもかかりませんが多數あることは、すぐれた有効性を示すものであるにもかかわらず、ワクチン接種後ムンブスに罹患する者が非常に少ないことがうかがえます。